

産業近代化を遂げた台湾の背後にあった山口
～「農度」から考察する日台関係～

講演：台湾東海大学農学部教授 王 良原 先生

日時：令和7年11月23日(土)14:30～

会場：防府市文化センター(防府市役所本館8階)

主催：台湾友好俱乐部

後援：山口県 山口県教育委員会(公財)山口県国際交流協会
防府市 防府市教育委員会 周南市 周南市教育委員会
一般社団法人 九州台湾商会

助成：(公財)山口県国際交流協会

台湾情報研究所 YouTube 産業近代化を遂げた台湾の背後にあった山口 第一巻～第五巻

第一巻

【I】近代史に登板する台湾の背後にあった日本

- ・大航海時代に突入した台湾
- ・台湾を眺めていた日本

第二巻

- ・台湾を眺めていた日本(第一巻のつづき)

【II】産業近代化を遂げた台湾の背後にあった山口

- ・台湾を領有した日本が発出した山口思想

第三巻

- ・世界の舞台に登板した台湾を支える山口

第四巻

- ・台湾の産業近代化を推し進めた山口

【III】「農度」から考察する日台関係－山口角度

- ・台湾製糖による台湾農度

第五巻

- ・磯永吉による台湾農度

- ・李登輝による台湾農度

【IV】今後の日台関係の「農度」を展望する

- ・台湾農度から日台農度へ

- ・農業からTSMCへ

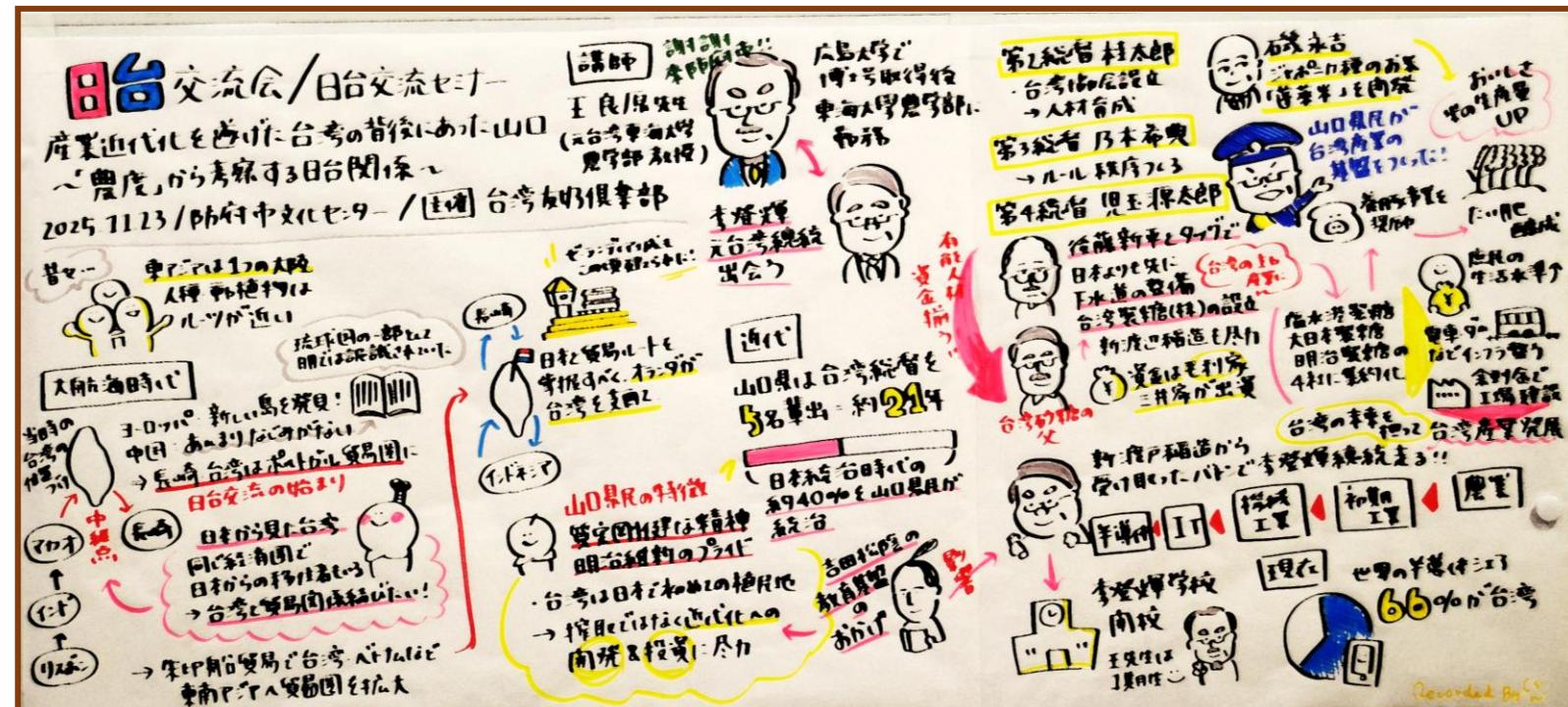
【V】台湾と日本の農度を読み直してみると実は



右のQRから講演の内容を視聴できます。見てね！



台湾情報研究所



グラフィックレコーディング：畠中 千尋 氏

発 行：台湾友好俱乐部 事務局

所在地：山口県防府市岸津2-11-19

taiwanclub886@yahoo.co.jp

080-4556-4574(相島)



台湾友好俱乐部



王良原先生の講演の一部をご紹介！ 動画は、「台湾情報研究所」のYouTubeで視聴できます。



台湾情報研究所



II. 産業近代化を遂げた台湾の背後にあった山口
台湾を領有した日本が発出した山口思想
第二巻 後半

日清戦争の後、台湾は50年間にわたり日本の領土になりました。19名の歴代台湾総督のうち、山口出身者は5名で、在任期間は延べ20年10ヶ月で40%強なので、山口育ちならではの統治・経営手法が必ずあったはずです。欧州列強が睨む中、日本が初めて獲得した海外領土である台湾の近代化開発に対して鋭意に取り組む必要がありました。そこで、「山口出身者の総理大臣」 + 「山口出身者の台湾総督」が構成する台湾近代化の推進構図が出来上がりました。台湾にとっては、山口方式のバッテリーの取り替えを通して近代化に向かうための新たな推進力が身に付いたといえます。

1898年2月より第4代台湾総督に就任したのは、政府の軍政要職を担いながら兼任の形を取った兒玉源太郎です。ほぼ台湾を不在にしなければならない覚悟により、行政手腕がある岩手出身の医師・後藤新平を民政長官に起用しました。台湾における製糖産業の近代化は今後の台湾の成長だけでなく、日本全体の発展に繋がると位置づけました。農業経済学者である新渡戸稻造を台湾へ招へいすると同時に、「台湾製糖株式会社」の設立資金に、伊藤博文と井上馨の連携した口説きによって、毛利元昭公爵は宮内省が代表する政府出資額と同じ1000株を受諾し出資しました。こうして、近代的コンビナート方式にシフトした台湾製糖産業は國家の根幹工業になりました。



II. 産業近代化を遂げた台湾の背後にあった山口
世界の舞台に登板した台湾を支える山口
第三巻 後半



IV. 今後の日台関係の「濃度」を展望する
台湾農度から日台濃度へ

第五巻 後半

新渡戸稻造が台湾総督府の殖産局長として特に製糖産業を軸に台湾農業の近代化に貢献した実績を慕い、磯永吉は在来種の台湾米からジャポニカ種への品種改良、李登輝は京都帝国大学農業経済学科への進学をそれぞれ目指しました。台湾米の品種改良の成果により、大正の米騒動と関東大震災をすぐに支援することができました。李登輝は戦後の台湾に戻り農業経済学者さらに政府の要職に迎えられ、遂に大統領に就任しました。自ら推進してきた経済政策の成果をバネに、台湾優先、台湾本位を中軸とする憲法修正、政治構造改革、社会民主化をさらに実行したほか、日本との友好関係を図りました。現在、農度近代化の恩返しの形で、半導体産業の協働を通して、台日間の濃度は高い次元になっています。